

---

---

# 開 会 挨拶

龍谷大学 学長 赤松 徹眞

---

---

皆さん、ようこそ龍谷大学へお越しいただきました。龍谷大学学長の赤松でございます。本日は年度末の大変お忙しい中、全国各地から多くの方々がお越しいただき、心から御礼を申し上げたいと思います。会場校を代表しまして、また本日のFDフォーラムを主催しております大学コンソーシアム京都の理事長を務めさせていただいております関係上、一言皆さんにごあいさつを申し上げたいと思います。

あいさつの冒頭ではございますが、少しだけ本学の紹介をさせていただきたいと思えます。龍谷大学は親鸞聖人の精神を建学の精神とし、1639年に西本願寺の中に学寮として開学したことが始まりとなっております。今年で創立374年目を迎える大学でございます。大学キャンパスとしましては、大宮キャンパス、滋賀県大津市にあります瀬田キャンパス、そして深草キャンパス、それぞれ学部は8学部1短期大学、10研究科、約2万人の学生が学ぶ大学でございます。

大宮キャンパスは、世界文化遺産として指定されております西本願寺の隣接地しております。長い歴史と伝統を感じさせるキャンパスで、建造物の多くは重要文化財として指定されており、文学部の3回生以上が学んでいるキャンパスでございます。

滋賀県大津市にあります瀬田キャンパスは、滋賀県大津市の要請を受けまして、今から25年ほど前に開学をしたキャンパスでございます。仏教系の大学で初めて開設した理工学部や社会学部、国際文化学部の学生が学んでおります。2015年4月には国際文化学部を改組し、国際学部として深草キャンパスに移転するとともに、瀬田キャンパスには、食と農の循環というキーワードのもと、全国的には35年ぶりとなる農学部を開設すべく、現在準備を進めております。

本日お越しいただいております深草キャンパスは、京都の南側に位置しておりまして、このキャンパスも1960年に経済学部を開設して以後、大学の本部機能を有するメインキャンパスとして展開をしております。現在は、文学部1、2回生、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、そして短期大学の6学部約1万人の学生が、この深草キャンパスで学んでおります。深草キャンパスでは、現在、建物の老朽化や国際文化学部の深草移転に伴い、建物を建て替えているところです。そのため、皆さまが一堂に介していただく会場がなく、シンポジウムⅠとⅡに会場を分けて開催することとなり、皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご容赦願います。

さて、大学コンソーシアム京都のFDフォー

ラムも、今年で19回目を迎え、全国に広く知られるフォーラムになりました。本日と明日の両日で、延べ1,300名の方々にご参加いただくこととなっております。大学コンソーシアム京都といたしましても、会場校である本学にとりましても、大変光栄に存じます。

2013年6月に閣議決定されました「教育振興基本計画」において、その基本的方向性の一つに、「社会を生き抜く力の養成」があげられております。近い将来に訪れるであろう予測困難な時代において、各大学では学生に対して「社会を生き抜いていく力」を教育あるいは研究、またクラブ活動や社会貢献活動等々を通して、どのように身に付けさせるのか、ということが喫緊の重要な課題となっていることと思います。そのような現状を受けまして、今回のFDフォーラムのメインテーマは、『社会で生き抜く力を育てるために』をメインテーマに、シンポジウムⅠでは、『京都発! 地域社会まるごと学習コミュニティー』と題して、大学と深いかかわりを持つ地域社会全体での学生の育成について議論がなされることは、「大学のまち京都」にある大学としても大変興味深く、その議論と成果に期待するところでございます。シンポジウムⅡでは、『未来を切りひらく学生を育てるには』と題して高大接続、退学者問題、学生支援、学びのコミュ

ニティの構築について貴重な報告をいただきます。まさに現代は、あらゆる事柄が目まぐるしく変化し、さまざまな問題が複雑に絡み合っている社会であります。そういった中で特に求められているのは、自らを支えて下さる人々や社会に感謝できる謙虚さを持ち、柔軟な心で多様なものを受け入れることのできる包容力。そして人の痛みがわかる想像力。強い意志あるいは情熱をもって主体的に物事を解決して未来をひらいていこうとチャレンジする行動力が大切だと認識しております。このような力を学生自身が身につけ、社会に貢献できるよう、今、大学が何をなすべきなのか、何ができるのかと、大学の力が広く社会から期待をされ、またその期待が強く要請されていることだと考えております。

これまでのフォーラムや、日々のFD活動の取り組みをさらに深化させていただきまして、本日のシンポジウム、また明日の分科会を通して活発な議論が展開され、そしてまた相互の交流が込められて、2日間のシンポジウムあるいは分科会の成果が、ご参加いただきました皆さまにとって、実りあるものにしていただければと念じているところでございます。

簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。